



営農ウィークリーNEWS

**9月13日、大原地域での検査を皮切りに
2019年産米の農産物検査を開始しました！**

大原支店で2019年度初の農産物検査の実施

9月13日（金）、大原地区で契約外米の農産物検査が行われました。今年の早生品種は、高温による影響を受けたことから背腹白粒が目立っていました。検査結果は全132袋中、2等が102袋（77.3%）、3等が30袋（22.7%）でした。



農産物検査の様子



農産物検査員鑑定実習の様子

農産物検査員鑑定実習を実施！

9月11日（水）、当JAの農産物検査員を対象に農産物検査員鑑定実習を行いました。2019年産米の出荷に向け、今年度も、適正かつ公正な農産物検査を行うための万全な検査体制を確立しております。

水稻採種に係る出穂期審査が行われました！

9月12日（木）、向島で水稻出穂期審査を行いました。この審査は種籾が順調に育しているかの確認を目的として行われました。次回は9月26日に水稻採種圃での登熟期審査が行われます。



水稻採種圃の出穂期審査の様子

-TAC information-

トビロウカ被害 管内で広がっています！

長岡京市でも発生を確認しました！



写真は、トビロウカによる水稻の坪枯れ被害の様子です。既に、号外でもお知らせしましたが、岩倉・久世・羽束師と被害が確認され、今回新たに長岡京市でも被害が確認されました。
トビロウカは局所的に発生し、急速に増殖し、坪枯れを生じさせます。一株当たり5頭以上成幼虫が確認されれば、防除が必要です。
圃場全体を注意深く観察し、発生に十分注意して下さい。特に株元を注意して観察してください！
防除については、裏面に号外を再掲載しますので、そちらを参考にしてください！



号外

J A 京都中央 令和元年9月3日



営農ウィークリー NEWS

トビイロウンカに注意！！

当JAの岩倉管内で、トビイロウンカによる水稻の坪枯れ症状が7圃場で確認されました。その他の地域でも、発生する恐れがあります。

近年では、数年に一度トビイロウンカによる被害が発生しています。

トビイロウンカとは

- 中国から偏西風に乗って飛来し、9～10月に多発するので、秋ウンカとされています。
- 成虫、幼虫がイネの株元付近で吸汁加害します。
- 出穂期以降に多発すると、急激に萎凋して枯れ、坪枯れ状態になります。
- そのままにしておくと、坪枯れの円が大きくなっていきます。



坪枯れ症状



体長1.3ミリの短翅型ウンカ

発生を見たら、以下のような薬剤により防除してください。液剤散布の場合は株元に薬液が十分にかかるように散布してください。

| 農薬名 | 倍率、散布量(10a) | 使用時期 | 回数 | 備考 |
|------------|-------------|------|------|------------|
| スタークル顆粒水和剤 | 3000倍 | 7日前 | 3回以内 | カメムシ類2000倍 |
| ダントツ水溶剤 | 4000倍 | 7日前 | 3回以内 | * |
| トレボン乳剤 | 1000～2000倍 | 14日前 | 3回以内 | カメムシ類2000倍 |
| スタークル粒剤 | 3kg | 7日前 | 3回以内 | * |
| ダントツ粒剤 | 3kg | 7日前 | 3回以内 | * |
| クラブ粒剤 | 3kg | 14日前 | 2回以内 | * |
| スタークル豆つぶ | 250～500g | 7日前 | 3回以内 | * |

*カメムシ類との同時防除